

道徳通信

令和5年1月13日（金）

日野市立大坂上中学校

コロナ感染拡大の影響により今年度の道徳授業地区公開講座も中止となりましたが、この通信にて大坂上中学校での道徳授業への取り組み内容をお知らせします。

全校で「命」をテーマに12月20日（火）第6校時に道徳授業を行いました。授業のねらい、読み物資料のあらすじ、生徒の授業感想等を掲載します。

第1学年

【資料】

『たとえぼくに明日はなくとも』（明日への扉 学研より）

【あらすじ】

難病を抱えた石川正一君は、耳も口も不自由な陶芸家の館野さんと出会ったことで、体にむち打ちながらもいろいろなものに打ち込むようになった。

【授業の感想】

- 改めて死について考えさせられた。
- 石川さんのように、生きてくても生きられない人がこの世はたくさんいるのがわかった。今この時間も瞬間も大事にしないといけないと思った。
- 人は、いつ死んでしまうかわからない。一人ひとりの命の重さに改めて考えられた。もし、人生が嫌だと感じたことがあっても、自分の好きな事をたくさんやって楽しむことが大事だと考えました。
- 自分を支えてくれる人に感謝し自分が「生きるのが辛い」と思ったら自分より苦しむ人々が何人もいるということを忘れてはいけない。
- 今生きているということがどれだけ大切で大事なのかということなのかが分かった。
- 自分が楽しいと思える事を見つけるのが大事だと思った。後悔、悔いの無い人生にすることが大切だと思った。
- 自分の価値を見出せなくても心をこめていろいろなことにチャレンジすると成長できると思った。
- 生きることは当たり前じゃない。人生は短いからできるだけよい人生にしていきたい。
- 残り少ない命で生きていくことはどれほど怖いのかと感じた。正一君みたいに新しいことに挑戦しようとするのはとても難しいなと思った。
- 命は何かするための時間のことで、命を大切にしたいと思うことが多い。
- 限りある人生だから、大切な出会いやものを見つけてそれを懸命にやっていきたいと思った。

【授業の様子】



第2学年

【資料】

『償い』（明日への扉2 学研より）

【あらすじ】

ゆうちゃんは、たった一度の過失で他人の命を奪い、償いのために被害者の奥さんに仕送りを続けていたが、ある日その奥さんから許されたと思える手紙が届いた。

【授業の感想】

- 改めて人に対して思いやりを持って生活していきたい。
- 何か起こしてしまったときに、逃げたり、言い訳しないで罪を認め、償うことが大切だと分かった。
- 過ちを犯さないことが一番だけど、犯した後の行動が大切だと思った。きちんと向き合って考えるようにしたい。
- 自分の中にある正義を信じ、過ちを起こさないという気持ちを持つ。
- ゆうちゃんのたった一度犯してしまった過ちにずっと向き合っていく姿が素敵だと思った。なにか失敗したときに怒られないかなどを考えてしまうから、ゆうちゃんの姿勢を見習いたいと思った。
- 日々の行いで償いの姿勢も伝わり方が違うので、日ごろからやさしさや気づかいができるようにしていきたい。
- 一度過ちを犯したら、しっかりと受け入れ償っていくことが大切だと思った。でも二度と起こさないように気持ちを改めることも大切だと思う。
- 今回のように意図せずに過ちを犯してしまうことが、これからの人生でも必ず起きると思うけれど、それに対してしっかりと反省して相手に対して誠意をこめて謝罪をすることが大切だと感じた。

- 自分が何か過ちを犯してしまったときに、どう償っていくのかというのを考えさせられました。時にはそれが理由で命を絶ってしまう人がいますが、それはダメなのではないかと思います。
- もしも自分がやってしまったときには、すぐに解決するだけでなく、相手を思って償ってほしいと思いました。
- これからの人生、失敗を犯してしまうかもしれないけど、その時は自分の気持ち、行動で償える人になりたいと思った。
- 人は過ちを犯してしまうことは生き物だから、その時に人の誠実さや優しさが分かることが分かった。どんな時も誠実さと優しさを忘れずに生きていきたい。
- 思いの伝わる行動をし続ければいつか伝わる。でも伝えればいいわけではなくて、いつまでもその気持ちが続けることができたとき、初めて楽になれるのだと思った。
- 優しさはみんな持っていて、その優しさを相手のために使って、それでも自分の人生を生きていくことが大切だと思った。
- 今の生活でけんかやすれ違いはあるけれど、相手のことを考えて許し合い、理解することが成長だと思った。
- この学習をする前は、人間は強くも弱くもないと思っていたが、今では人は強い生き物だと思った。

【授業の様子】



第3学年

【資料】

『優介の決意』（明日への扉 学研より）

【あらすじ】

「臓器提供意思表示カード」を持つ優介が事故に遭い、脳死状態となった。しかし臓器提供は行われず、優介は息を引き取る。加奈美は「それがよかったのか」考え続ける。臓器移植について、本人や家族、臓器を提供する側とされる側など様々な立場の意見を基に考える。

（日本臓器移植ネットワークよりご提供いただきました「臓器提供意思表示カード付リーフレット」と「道徳教材セット～つながるいのち～」を使用しています。）

【授業の感想】

- 心臓移植について知り、できれば自分も最後を迎えるときに自分の臓器を無駄にせず誰かに提供したいなと思えた。
- 自分はしない。臓器も自分の体の一部で成長した証なので言ったら悪いけど他の人の体に行ってほしくない。
- いのちについて考えることができた。人それぞれ考え方が違うからこそ難しいことなのだと思った。
- もし自分が死んだ場合渡そうかとても考えた。
- 絶対にありえないということは絶対はないから、今からでもこのカードを持っておいたほうが良いと改めて思った。
- 身の周りの人や生き物をもっと大切にしていこうと思った。
- 臓器提供によって助けられる命があるということを知れてよかった。
- 臓器移植の意思表示カードを渡されて、軽く誰かを救えるならそれでいいと思っていたけど、改めて人に臓器を移植することの重みを感じた。それでも重みを感じたうえでやっぱり誰かのためになりたいと思えたから私は意思表示をしようと思う。
- 臓器移植の提供の決断は、そう簡単なことではないけれども、たくさんの命が助かるのですごくと思った。
- 命の保持者の意見がその人自身の生きる道だから身近な人が臓器移植を希望するならその意見を尊重するし、私も臓器提供しようと思う。
- 臓器提供は提供する側にとってはやってほしいが周りの人からすれば生きてほしいと願う。でも私はその人の人生だからその人の意思を尊重してほしいなと思います。
- 自分が臓器提供をする立場であったらどうするかについて考えられたし、家族に自分が臓器提供をすると伝えたらなんというのかが気になった。
- 臓器移植は色々な思いがあって行っているからとても大事にしないといけない。
- 命に対する考えはいろんな考えがあるけれど、全部誰かへの思いがあるんだなと思いました。
- もし自分の友人や家族が臓器提供されなければ死んでしまうとしたら、臓器提供をしてでも生きてほしい。同じように臓器提供が必要な人の友人や家族はきっと苦しい思いをしていると思うので自分も臓器を提供したいと思う。脳死は生きているという意見も分かるが、自分としてはもし脳死状態になったら自分の体を提供して、生きられるだけの人が生きられたらいいと思う。
- 自分が死んだとき、自分の臓器が誰かの体に入ることによって助かる命があるなら喜んで差し出すと思う。また、私の大切な人がそういった状況になっても誰かの体で生き続けてくれるなら、悲しくはあるけど、私はそれを止めないでいたいと思う。
- これらの話を聞いて、もしその立場が自分だったら、自分の身内、親戚だったらなどと考えるきっかけとなった。また、考えるに当たって自分の身内の子などの臓器を提供できる人はとても尊敬で

きると思った。臓器がないともう生きることができない、だが移植されたら生きることができる、というようなことが他人にあった時、人々が寄り添い命を大切に生きていくことが大切と私は考えるため、臓器は提供してもいいかなと思った。しかし、身内の臓器は提供したくない、というようなこともあるため家族と話し合うことが大切だと思う。

●臓器移植は世界中の人たちが待っていることがわかりました。改めて自分の家族とか友達が臓器移植が必要だったらやるかもしれないです。

●命とは深いものだと思った。

【授業の様子】



10組

「ぼく」という資料を使って、自分の好きなもの・ことを発表しました。好きなこと・好きな人・好きな景色など、それに出会うためには「自分自身がいることが一番大切だ」ということについて考え、生きている自分の大切さに気付きました。また、今を大切に生きていくことが将来の自分の夢をかなえるために大切であるということも考えました。その上で「自分

への表彰状」を書きました。自分で自分をほめることが苦手な生徒も多いので、まずは班員から付箋に良いところを書いてもらい、それを参考に自分への表彰状に記入をしました。①自分のいいところ

賞

しょう
賞

_____ 殿

●あなたのいいところは、

です。

●これから未来に向かって、

していただきます。

令和 4 年 12 月 20 日 大坂上中学校 一年 10 組 自分より

②未来に向けて努力したいこと を書き、書いた表彰状を班員に読んでもらい、表彰式をおこなうと、照れながらも嬉しそうな生徒たちの表情がとても印象的でした。

自分を認め大切にすることの気持ちをもって生活を送ってほしいと願っています。

【授業の様子】

